



アンチエイジングの強い味方として

シラノールを

(ケイ素誘導体)

徹底解説!

いま注目を
浴びている

若い肌はケイ素の働きで
守られている

赤ちゃんの肌はなぜ、あんなにふっくらしていて柔らかいのでしょうか？ それは、肌の中に含まれる「ケイ素」が細胞を強化し、多くの水分を保持しているから。

ケイ素はこれまで大規模に研究され、生物におけるその役割についても臨床的に試験されてきました。その結果、ヒトの組織体にとって必須の構成元素であり、人体の全ての構造および機能中に存在することがわかったのです。

しかし、ケイ素は体内で合成されることはありません。また加齢と共に減少していきまいます。

老化と戦うシラノール

そんなケイ素を肌に補給するために活躍するのが「シラノール」。

シラノールは「ケイ素誘導体」を意味し、皮膚の老化への対抗に特に適した構造となっています。そして、皮膚に対してケイ素を供給するため有効に働きます。

シラノールの性質としてまず挙げられるのが、老化防止作用。これにはシワ防止、抗フリーラジカル、

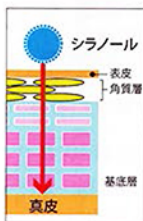
抗グリケーションなどの作用も含まれています。他にも保湿作用、引き締め作用、抗セリニユライト作用、鎮静作用など、皮膚組織の老化に對抗する性質を多く持っているのが特徴といえるでしょう。

シラノール配合の化粧品 その驚きの効果とは

では、シラノールが成分として配合された化粧品には、どんな効果が期待できるのでしょうか。

化粧品に含まれたシラノールは肌にケイ素を補い、内面から強化し、恒常性(ホメオスタシス)を甦らせる効果を発揮します。つまり、老化して衰えた肌の柔軟性や弾力などをアップさせ、再び赤ちゃんのようなハリのある瑞々しい肌へと導いてくれるのです。

SK-II や suisai といった有名ブランド化粧品にもシラノールが配合されているものは数多くあるので、購入の際に成分表をチェックしてみてください。



シラノールは真皮レベルにまで届き、その完全性を維持するために働く

◆種類別に見るシラノールの主要特性

マンノロン酸メチルシラノール	老化防止、鎮静、保湿
アルギン酸メチルシラノール	保湿、脂肪分解
サリチル酸シラノール	保湿、組織再生、抗炎症
ヒアルロン酸ジメチルシラノール	保湿、細胞賦活
サリチル酸シランジオール	保湿、鎮静、抗炎症
アスパラギン酸メチルシラノールヒドロキシプロリン	コラーゲンの再構築、引き締め、シワ防止
メチルシラノール乳酸	保湿、組織再生、抗炎症、老化防止
海藻エキス(100%天然シラノール)	老化防止、保湿、鎮静
メチルシラノール+加水分解エラスチン縮合液	保湿、線維芽細胞増殖促進、引き締め
ジメチルオキソペンゾジオキサシラノール	保湿、組織再生、抗炎症

